

— 大樹町宇宙航空課ニュースレター —

Taiki Aerospace News

大樹高校にて宇宙産業に関する座談会が開催

5月25日、大樹高校にて大樹町の宇宙産業に関する座談会が開催されました。

大樹高校では地域探究授業の一環として、生徒それぞれがテーマを設定し、調査や考察を通して町について理解を深めることを目的とした授業が行われています。

3年生の道見 隼大さんは、2月に行われた成果発表会において、「大樹町民に大樹の宇宙産業を理解してもらうには」というテーマで座談会の開催を提案しており、今回、その実現に至りました。



本座談会には、講師としてインターステラテクノロジズ社から橋本氏、SPACE COTAN株式会社から小田切氏、役場から菅課長が出席し、2部構成で行われ、第1部は講師講話、第2部はトークセッションという内容で進行しました。

第1部の講師講話では、射場を整備するうえでの町の優位性やHOSPO整備の資金調達方法、小型ロケット「ZERO」の概要、射場運営の仕組みについて説明がありました。

第2部のトークセッションでは、道見さんがモデレーターを務めました。

「宇宙産業が町の観光や雇用にどのような影響を与えているか」というテーマでは、昨年度、39件・延べ28,552人がHOSPOを利用し、約52億円の経済効果があったことが紹介されました。3万人近い人が大樹町を訪れることで、地域の経済への好循環が生まれており、新たにホテルが2件開業したことにも触れられました。

また、「なぜ大樹町で宇宙産業が行われているのか」というテーマでは、町民に温かく迎え入れられ、企業としっかりコミュニケーションを取りながら協力・支援してきた環境があったからこそ、40年にわたり宇宙の取り組みが続けられてきたと述べられました。



高校生から寄せられた「学生のうちにやっておくとよいことは」という質問には、知的好奇心を持ち、調べるだけにとどまらず、直接話を聞きに行ったり、人とコミュニケーションを取ったりすることの大切さが伝えられました。

また、「日本とアメリカでロケット打上げ回数に大きな差がある理由は」という質問には、アメリカには失敗を恐れない文化があることや、事業として「稼ぐ」視点を持っていることなどの違いが示されました。

最後に、モデレーターを務めた道見さんは、「ボランティアサークルでの活動を1年生の頃から続ける中で、町民に宇宙の取り組みや町への影響について十分に情報が行き届いていないと感じ、この座談会を企画しました。この座談会を通じて、皆さんが考えるきっかけになればと思います」と締めくくりました。

企業版ふるさと納税の感謝状贈呈式を開催

5月21日、大樹町宇宙交流センターSORAにて、企業版ふるさと納税の感謝状贈呈式を実施しました。

令和7年4月から令和8年3月までの間に、18億6,560万円のご寄附をいただいた61社の企業のうち、35社が参加し、黒川町長から感謝状を贈呈しました。

感謝状の贈呈に加え、各企業様から北海道スペースポートプロジェクトに対する応援コメントをいただいたほか、写真撮影を行いました。



大樹高校2年生によるフィールドワークを実施

5月27日、大樹高校2年生19名がHOSPOとIST社を訪れ、SORA、滑走路、LC1、IST本社を見学しました。IST社の見学では、社員の金井さんからISTの歴史や現在開発中のロケットZEROについて説明を受けました。

今回のフィールドワークを通じて、大樹町が進める宇宙のまちづくりの魅力や可能性について理解を深めることができる貴重な機会になりました。



令和8年度日本宇宙少年団大樹分団総会を実施

5月23日、令和8年度日本宇宙少年団大樹分団総会を役場にて行いました。

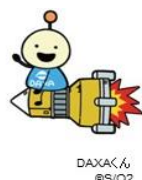
総会には、団員・保護者合わせて7名が出席し、昨年度の活動、会計監査、役員を選任等について報告しました。

大樹高校宇宙ボランティアサークルとの活動を増やしていくことを説明しました。

総会後には、クラフトキットの「天体望遠鏡」を製作する分団活動を行い、熱中しながら製作していました。



団員募集中！！
申し込みは
こちらから



天体望遠鏡の仕組みとは？～今日のなんちゃら雑学～
天体望遠鏡にはケプラー式とガリレオ式があるんだって～！
ケプラー式は2枚のレンズで光を集めて、明るく広く見えるけど像は逆さまになるんだ。ガリレオ式は凹凸レンズを使って、正しい向きで見えるけど視野は少し狭いんだよ。どちらも遠くの天体を大きく観察する仕組みなんだよ！！



こてつくん

<大樹町宇宙応援アンバサダー>